

秋山山行 報告書



一もくじ一

黒打丸山右岩鏡兼有ルート	—— 2
甲斐駒ヶ岳 A7ライン赤ヶ岳ルート	—— 2
裏銀・表銀	—— 3
南ハツ縦走	—— 3
屏風岩 東陵	—— 4・5・6・7
丸山東壁緑ルート	—— 7
幕岩	—— 7
白神岳追良瀬川	—— 10
幕岩大凹角	—— 11
瑞牆山 山河ははみ	—— 8・9
裾花川	—— 8
屏風岩 聖橋	—— 3

信州大学山岳会

~~昭和三十三年~~

● 黒部丸山右岩稜 京都府立大ルート
 ↳ 作道, 植垣.

9/13 ● 黒四ダム ① 8:30
 京都府大登攀南台 ① 11:00
 3ピッチ途中 ① 18:00 ↳ 1P半下降
 1ピッチ終了点 ① 19:00
 B.S.

9/14 B.S. ● 9:00
 下降南台 ● 13:00
 取り付き ● 15:00
 黒四ダム ● 16:30

前日の②P目を2マ-リ-ンク
 後. さらに1P登りがルートを
 まちがえ大ハンクルートにス.ス
 (まじ).
 ↳ 4P

甲斐馬向ヶ岳 A7エケ赤クモ
 ↳ 橋口, 長谷川

9/19 は雨のため中止

9/20 北沢峠 9:30 ①
 甲斐馬向ヶ岳 12:00 ④
 八合目BC 2:00 ①

9/21 BC 5:00 ①
 取付 7:00 ①
 開始 8:00 ①
 終了 5:50 ①
 BC 6:40 ①

9/22 BC 8:30 ④
 北沢峠 12:40 ①

大系どおりだった. 先行パーティーが11乙おわてはた

- 裏銀・表銀偵察縦走 9/17-20 L藤江
- 9/17 高瀬ダム0630-1430野口五郎小屋TS 晴れ
- 18 TS0615-1410双六小屋TS 曇り時々晴れ
- 19 TS0835-1310槍ヶ岳1330-1630西岳ヒュッテTS
雨後晴れ
- 20 TS0720-1350中房温泉 晴れ
- 双六の夜は、冬型の為台風並み。槍では初雪となった。冬はシブそう。(藤江)

南ハツ 縦走 . 硫黄岳 ~ 赤岳

L. 博多 . 尾関 . 小林 . 流 . 広谷 . 松本 . 吉沢

9/28 美濃戸ロ 11070 ——— 1435 赤岳鉱泉◎

夕方、外でメシE作っていると、諏訪有線テレビなるとニ3に
取材Eうけた。

9/29 T.S. 0700◎ ——— 0840◎ 硫黄岳 ——— 1051◎ 横岳
—— 1100◎ 赤岳石室 ——— 1213◎ 行者小屋
—— 1502◎ 美濃戸ロ

編笠まで行く予定だったが、天候悪化のおそれがあるため下山した。
1年だけの山行で楽しかったが、山行自体は非常につまらない
ものになってしまった。この日白馬で初雪とのこと。(博多)

- 屏風岩・雲稜ルート 9/30-10/1 L藤江、長谷川(哲)
- 9/30 上高地1220-1520横尾BC 晴れ
- 10/1 BC0410-0455T4尾根取り付き0540-3P(25+50+50)+コンテ-0640T40655-5P-1110懸垂点
1135-同ルート懸垂4P-T4-懸垂3P-1335T4尾根取
り付き1415-1445BC 晴れ オニ飲み・オニ燃し
- 2 BC0930-1230上高地 晴れ
- ゴキゲンな紅葉クライミングでした。(藤江)

山行報告

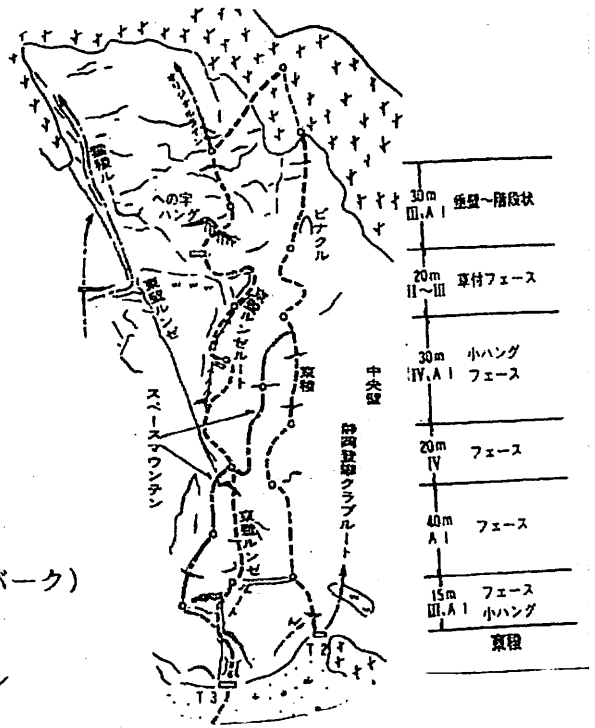
MEMBER 政岡直人 流 憲一郎

穂高岳 屏風岩 東陵 (4級下、A1、155m、3時間)

緑ルート (5級下、A2、280m、5~8時間)

10月5日(月)、6日(火)

- 5日 3:20 松本、寮発
 4:35 沢渡
 5:45 上高地
 ? 横尾
 9:00 T4尾根取り付き
 11:40 T2、東陵取り付き
 15:20 終了
 15:35 下降開始
 16:40 T3
 T4下降開始
 17:35 T4取り付き
 (T4横の穴にてビバーク)
- 6日 8:00頃 起床
 12:20 上高地バスターミナル
 (緑はのぼらなかつた)



5日、松本君の車で沢渡まで送ってもらう。いつもながら感謝！沢渡^で雨が降り出す。気にしながらも上高地、横尾と進む。横尾~取り付き、1ルンゼ押し出しには大ケルンがあるのですぐわかる。梓川は水量が少なく、靴を脱ぐことなく渡れた。押し出しを30分程でT4尾根取り付き。雨がさらにひどくなっていたが、迷わず昇り出す。1ピッチめ政岡リードするが、岩は濡れておりのぼりずらそう。2ピッチめ流リードだったが、ピンがいっぱいあるところで適当に切ったところまちがえてしまい、結局3ピッチで道にぬけた。そのまま登ってT4着。雨がひどかったが、そのままのぼろうということになり、したくをしてT2ヘトラパス。11:40東陵に取り付く。1ピッチめ政岡リード、10分で抜ける。

2ピッチめ政岡リードA1、40mのピッチ。ボルトが腐るほど打ってある上に、お助けシュリングがたくさんぶらさがっていてつまらない。政岡は怒っていた。3ピッチめ、流リード、楽勝。この頃から雨が雪に変わり、急速に体が冷えてくる。この辺から体のふるえが止まらず手も思うように動かなくなり、必死の形相となっていた。記憶もあやふやになって、よく覚えてないのだが、4ピッチ目の小ハンクからフェースのリードにあたったように思う。そのハンクを登ったところに大きなテラスがあって、ルートは右にトラバースして草付き凹角（2から3級）を登るはずなのだが、そのトラバースがおっかなくてできずに、そこでピッチを切ってしまう、政岡さんに登ってもらうことにしてしまった。フォローでのぼるとたいしたこともなく残念だった。結局、残りのピッチは全部フォローでしか登れる状態ではないくらいに手がかじかんでしまっていた。ガバしかつかめなくなり、あとはビナに手をいれてつかむことしかできない！全身ずぶ濡れて震えっぱなしであった。半ベそをかきながら最後の垂直をA1で登り、最後のテラスに立ったとき、安全環を回すことができなくてセルフがとれなくて困った。

さあ懸垂である！ザイルがむすべずに、全部やってもらい、情けなかった。ピレイで待っている間も疲労と寒さで眠くてしょうがないほどだったのに加えてまだやったこともないような長い懸垂である。政岡さんがハンク下に消えてゆき、じっと「降りていいよ」のコールを待つ。スリングがいまにもきれそうにハラハラした。自分の番である。8環を落とさないように気をつけてセットし、ナムサン！下りだした。濡れたザイルがうまくながれてゆかずにガクンガクン止まってしまう、支点によけいな負担がかかって切れやしないかとヒヤヒヤする。またザイルから絞り出される水が袖の中に入り込んで冷たい。1回目は順調だったが2回目に東壁ルンゼかスペースマウンテンに紛れ込んでしまい、3本のリングと小さな足場とあぶみに身を託して支点を補強する。下を見るとハンクですっぱり切れ落ちており高度感満点！股間緊張！政岡さん下り始める。しばらく降って空中に宙ずりになったとき、下から「こおえー！」の連発。しかもザイルはまだ下に届いてないので、このまま宙ずりで次の下降点まで届かなかったらどうしようと本気で心配したが、しばらくしてから「これで安心だ」とのことばがきこえ、大喜びしたうれしさは忘れられないものになった。実際降り始めてみると完全に体が宙ずりになり、クルクル回ってしまった。そうして屏風を背にして見た景色も、

緊張と恐怖で忘れられなくなりそうだ。特に夢にでそうで恐い。「安心」の下降点（それほど安心でもなかった）につき、「頼む！下まで届いてくれ！」と願いを込めてザイルを引く。「やったとどいた！」というわけで無事T3に到着。ホッとする間もなく雪のなかをT4へ。ずぶぬれのままT4でツエルトをかぶろうかともおもったが、とても耐えられそうになかったのでT4尾根取り付きまで下降することになり、さっそく歩き出す。日が暮れそうで恐い。このとき僕はほとんど手が動かず、安全環のゲイトすらあけられない有り様だったので、下降点づくりや、その他のことは全部やってもらった。政岡さんの動作はこのような悪条件の中にいながらとてもきばきしており、「落ちつこうぜ！」と何回励まされたかわからないほどである。この頃から急速に暗くなってきており、真っ暗な中へ懸垂で下りてゆくのはとても恐いものであった。

2ピッチでT4取り付きへ。とても安心したが、1ルンゼが滝となっており、下降は無理だということで、T4の穴にてビバークすることとする。この穴はいままで濡れそぼっていたわれわれにとってまさにパラダイスであった。ツエルトを張って、ストーブをつけると、フワット暖かくなり、少し生きた心地になった。スープをすすって、体があつたまると、猛烈に眠たくなって、ただ座っているだけでコックリコックリくる。こうなるとただ早くシュラフにはいつても暖まりたいの一心で先にシュラフにくるまってしまった。このときも政岡さんにはとても世話になってしまい、身の回りの荷物を整理してくれたり、ツエルトを整備してくれたり、申し訳ないなと思いつながらも何もできなかった。ビバークのやり方やツエルトの張り方などたいへん勉強になった。

この夜も寒くて何度も目をさましては時計を見ることを繰り返した。特に、寝ながら足がつたのには参った。

朝になってびっくり、空は晴れ渡っており、日差しがまぶしかった。向こうに見える山々には白く輝く新雪で輝いていた。政岡さんが「こんなもんだよね」といっていたのが印象深い。とにかくもう8時だったので登攀はあきらめてのんびり降ることにする。（僕はほっとした）何でもその夜は松本でもとても寒かったらしい。

1ルンゼを下って河原にでると、真っ青な空をバックに紅葉の屏風岩が美しかった。屏風の頭まで雪がきていた。

悪条件の中登ったのははじめてだったが、たいへん勉強になった。また、自分の弱いところもたくさんわかり、大きな収穫になった。これからはそれらを考慮してトレーニングし、もっと強くなりたい。

丸山東陸 緑ルート 山伊半野、長谷川(0B)

10/9 ● 15:50 黒四 — 17:00 ルンゼ押出し B.C

10/10 ● 雨のため登攀中止。
10:00 B.C — 11:20 黒四

幕岩 藤江・高橋組
10/10 七倉ダム1510-1600高瀬ダム1610-金時の滝の右岸の巻き道を行こうとしたが、3本並ぶルンゼの一番傾斜の緩い左のを登ってしまう。すぐに違うということに気づき、川原まで引き返す。右のルンゼは傾斜がきつそうで、又暗くなってきたのでfixロープも見えず、正しいルートであると気が付かなかった。左岸の巻き道を行こうとしたが、真っ暗になってしまったのでアルミ梯子の下流でビバークする。

11 BS0520-左岸の巻き道-0820大町の宿-植垣・長谷川組と合流、下山。大町の宿に向かう途中、予想外に時間がかかり、高橋もへろへろになってきたので登はんは諦める。後学の為と植垣さんに伝言を置いていく為に、とりあえず大町の宿を目指す。左岸の巻き道の入り口にはケルンが積んであり、赤テープもある。最初から最後まで殆どfixロープがある。傾斜はかなりきつく、時間もかかる。

アプローチを甘く見て、ツボッてしまった。メットを忘れて取りに帰ったりして入山が遅くなった。緊張感に欠けていました。初めてのエリアの場合はしっかり地域研究しましょう。高橋には悪いことした。必ず借りは返す。(藤江)

白神岳 追良瀬川

↳ 長谷川(貞), 兼岩, 安保

10/3 松本 6:30 = 秋田 24:00 千秋公園ビバーク

10/4 秋田 - 岩崎 十二湖観光後, 弓ヶ西林道を通り,
追良瀬大橋まで。

10/5 大橋 6:15 ◎ - 中ノ沢出合 11:00 ① - 五郎
三部ノ沢 TS 13:50 ◎

10/6 TS 10:00 ① - ウズラ石沢出合 14:00 ① - 出合
上流 T2 14:30 ①

10/7 T2 より上流へ釣り。

10/8 T2 7:50 ◎ - 陸奥黒崎駅 16:00 ウズラ石沢をフ
めて白神岳へ出る。途中, 2ヶ所 ビニールテープのマーキング
があるがわかりにくい。

全体を通して, 問題となるところはない。(ザイロは一度も出
さなかった。) 気温もそんなに寒くなく, 紅葉もまっ盛り, イワ
ナもキコモとれて, 最高の山行となった。 (安保記)

幕岩 大凹角 La 伴野・高橋

10/16 ② 14:20 七倉タム — 17:00 大町の宿

10/17 ① 5:45 B.S — 6:00 大凹角取付
6:30 開始 — 11P (30+30+40+50+50+40+10+30+10+30+20) — 15:25 右横の頭
15:45 下降 — 7P (25+771473>10m+40+30+30+25+50+50) — 18:35 右横のコル — 18:50 B.S
3P目 フォロ-の伴野が滑って落ちた。岩はぬめっていて
状態が悪かったにもかかわらず、71-でしかも手が冷たかった
ため早急をしながら登ろうとしたのは間違っていた。素直
に人工で越えれば良かった。緊張感に欠けていた。
8P目 (上部の大タム = 1P目) 右側のフェースを行くべきところ
をシュリングが目に入り、タム = を直接登ってしまった。岩は
泥でぐしょぐしょになって最悪であった。ロンも最初の
シュリングが垂れているものだけで後は全くつかれた。リスに全く
1箇所 フレンズ NO.3 でプロテクションがとれたためだった。

10/18 ① 7:30 B.S — 11:00 七倉タム
金時の滝の横のルンゼでフレンズ 2P (50+50)

瑞牆山「山河ほほえみルート」

10月10日 member 政岡 直人 (cmc) 流 憲一郎

北沢への道をとぼとぼとつめてゆくと、目の前に特異な山が望まれるが、これが瑞牆山であった。畑の裏の踏み跡をつめてゆく、そのうちにケルンがでてきた。そこに入っている沢をつめるが、これは一つ手前の沢であったことにきずき、末端壁の基部を右手にトラバースして本来の沢に入る。そこからさらに30分ほどがらがらの沢をつめる。目の前に顕著な岩塔が立っており、勝手に大マラと名づける。少しわかりづらいが、手ぬぐいなどで目印がおいてあり、そこから左へ入ってゆくと大洞穴であった。大洞穴の天井はグサグサで湿っぽく、その中を通っている微笑み返しはとりつきがぬれており、なんだか陰気であまり登りたくないルートであった。

さて僕らの山河微笑みルートはその大洞穴から左へ20メートルほどいったところであるのだが、目印のピナクルはとて「ピナクル」などと呼べる代物ではなく、あまり目印にはならないと思う。しかしよくみるとそれらしいものはその変な岩しかないし、上にオーバーハングがあるので、ここしかないと思い取り付く。1ピッチ目はブッシュが多い。政岡は「俺に岩を登らせてくれー！」と叫んでいた。ピナクル上のハングは右へ行くのだが、そこは濡れていて悪い。僕はフォローであったため、メット、ザックをしょっていたが、メットがじゃまで、はずしてやっとクリアできた。その後は藪を登ってテラスへ。次は大チムニー4級、40メートルで僕のリードである。最初は4級なんて余裕だと思っていたのだが、これが辛かった。特にチムニーなぞは登ったことがないのでおもいきり衣服を消耗してしまった。そして大テラスで政岡さんを待つがこちらはたいへんスムーズであった。次は核心の2ピッチ5、10aのクラックで、政岡リード。10aといえどクラックは辛くてたいへん苦勞していた。1カ所クラック横にボルトが打っており、そこで休んでいた。僕のフォローであるが、相変わらずメットがじゃまでぶら下げて登るが、こすれたりさまたりでじゃまでしかたがない。フォローの気安さでオールフリーで克服。次が最後3メートルクライムダウンしてからクラックからオフィズスに登るというものだが、ここが核心のピッチである。政岡もかなり苦勞していた。オフィズスの横にボルトが2本打っており、結局使ってしまう。そしてかなり苦勞して終了。僕の番だが、少し登ってあきらめ

て、片手にキャメ、片手にお助けシュリングで無理矢理登る。登るしかないのだ！ルート中の眺めはすばらしく、富士山が大きかった。甲斐駒など、南アルプスの山々が望まれた。山河微笑みというルート名の理由がわかる。十一面の頭まではブッシュが濃く、1ピッチの岩登りも交えてなかなかきびしいものである。頂上で一服やって後はちんたら下る。たいへん充実したクライミングであった。

クラッククライムを甘くみてはいけない。クライミング観が大きく変わってしまった。もっとさまざまなクライミングをこなさなくては！

ギア

フレンズ、キャメロット各1セット、ピナ、スリング各10でよいだろう。また荷を持つとセカンドが苦しくなるので、天気が確実なら持たないほうがよいと思う。どうも今回はオーバーギアで疲れた。

裾花川 L. 兼岩, 三木

10/10 ◎6:00 アブ干橋 — ◎9:00 ゴルジュ入道 — ◎11:30 出口

◎奥魚止の滝1本支沢出岩小屋T.P (12:00)

地獄谷の出合は、地獄谷を登り、10m懸垂、奥魚止の滝付、ハーケン3本ほどの人工。(左岸)次から次へと上ったり、滝を越えたりするので楽しい。天気が悪く、ちっと寝かった。

10/11 ◎5:45 T.P — ◎7:00 10m滝 — ◎10:00 不動取付の沢
— ◎11:35 不動 — ◎13:00 戸隠牧場

10m滝は、左岸より取付き、水流もブリッジで横切り右岸に移る。水流が強く、緊張する。ハーケン、フレスでプロテクション取る。

— 不動取付の沢出合には、7.11のポリ袋有。正確にマッピングすれば、— 不動に糸、さり出る。(ゆやまごき)

この谷は、名谷だ。紅葉もきれいだし、静かだし、ゴルジュ、滝、TXと本当に楽しく進行させてくれる。(兼岩)

前穂4峰正面壁(松高ルート)墜落報告書

入山地域 北アルプス
 ルート名 前穂4峰

リーダー会 許阿サイン (印)

1. 計画書

山行期間 8/13 ~ 8/17 実動3日 予備2日

最終下山時刻 8月17日 16時05分

メンバー 藤江 (L) 博男
 植垣 広谷
 松沢 松本

山行日程 (エスケープ、非常時対策)

- 1 上高地 - 松高尾根 - 奥又白岩BC
- 2 松高ル+ 北条新村ルート、前穂東面右岩場古川ルート
- 3 登山後下山 BC-上高地 A又岩壁
- 4 予備日 下路 5.6の北谷由
- 5 予備日 本峰のA沢

エスケープ 下路下山 ケズイ

装備
 ザイル 9mm 45m x 2本、ザイル 9mm 50m x 2本、シュリング x 50本
 カラビナ x 60枚、ピトン x 10本、ボルト x 6本、ジャンピング x 2、粗本
 ツェルト x 2本、テント 1、火器、ホプス、パイル x
 ラバー、144mm、靴、ハンマー 14

2. 全体ルート図

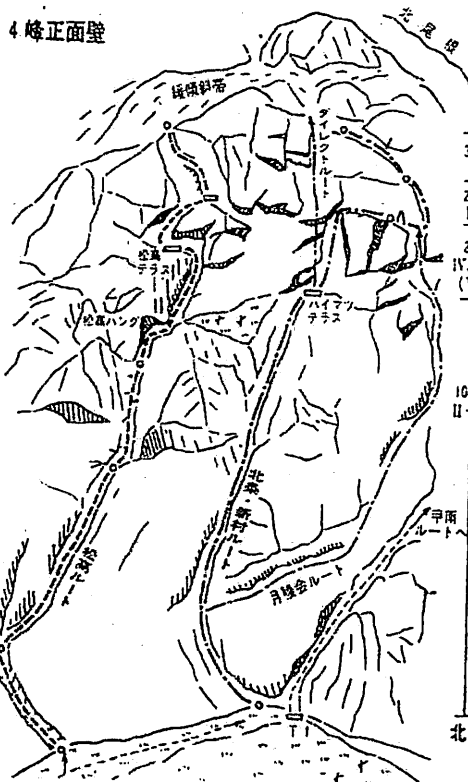
食料 (5日分 予備食) x 6人分

現地留守 138松0徹
 198志塔
 15-17日三木

所轄警察 豊田 0265-72-0110

ブッシュ混 じりのスラ ブキ上	30m IV-
巨岩〜カン テを岩へ	15m IV, A 0
ハンク等の 三角を直上	30m IV, A 0
垂直じり フェース	30m III
バンドを 直上	40m III
垂直のラン ク	40m II
松高ルート	

4峰正面壁



30m	フェース〜 凹状部
25m	トラバース〜 IV カンテ〜凹角
25m	ハンク等の切 IV, A 1 ね目〜トラバ (VI)ース

100m
II-III

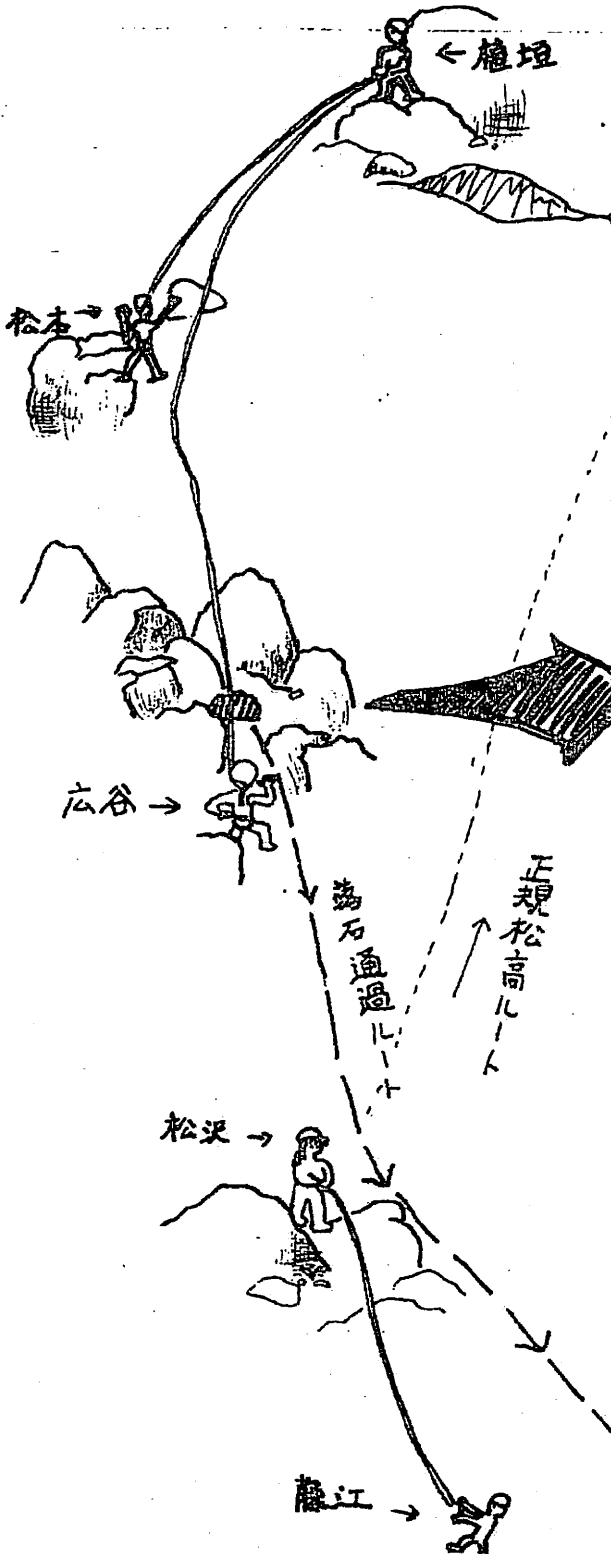
T1から左へ回り
こみ凹状部(ガリ
ー、クラック)を
登る。途中にはレ
ッジが強か所あり
ピッチを切るこ
とができる

北条・新村ルート

「日本の岩場」(白山書局
より)

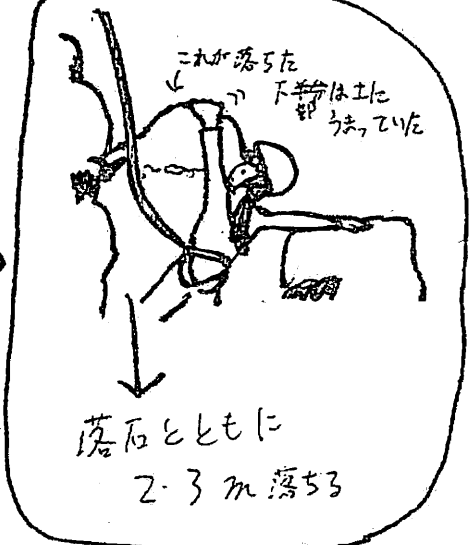
3.

松高ルート
2P目拡大図



↑ 上には内田・曾田 Party

落ち石時のムーブ



北条・新村ルート



4. 経過

計画では、8/13 奥又白池に B.C を設置し、14・15 の両日登ハンの予定であったが、13日が雨、14日は曇りで登ハン不可能とみた為、15日 いちにちの登はんとする事になった。

植垣・松沢・広谷 — 松高ルート

藤江・松本 — 北条・新村ルート

このように登る予定であった。

8/15 (行動記録)

サマ天 2:08 ①

明神 2:39 ①

徳沢 3:25 ①

前穂岩壁午前 6:40

7:20

登ハンの準備をする。北条・新村ルート
他パーティが多く取り付いていたため予定変更。

登ハン開始 8:30

7P + 2P (サインをつけて歩く)

4峰登はん終了 14:30

出発 15:35 〇

5・6のゴル 16:38 ①

奥又白 18:10

名工大と合流

徳沢 20:55 〇

明神 22:23 〇

サマ天 23:20 〇

行動終了

5. 状況

松高ルート 2P目、先行パーティーは植垣のリードで 松本、広谷の順に登る。後続は、松沢がリードして 1P目 終り点に支点を作り、藤江がフォローで登りはじめた所だった。松沢は 1P目 終り点において、広谷が登るのにつまって小石の岩をポロポロとおとしているのを気にして見ていた、そこへ大きな岩がぶつかった。頭の上をかすめ、壁にあたりながら いくつものにわれ、右隣りのルンゼに入った。幸い、藤江、松沢の後続パーティーにも、北条・新村にとりかいていて (1P目 終り点に3人) パーティーにも支障はなく、広谷も、しっかり確保されていた為、けがもせず 2・3m 落ちただけですんだ。

(松沢)

